

第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会に 向けた取組について（要望書）

日頃よりスポーツの振興に格別の御支援をいただき誠にありがとうございます。

さて、本年10月、中国杭州で開催された第19回アジア競技大会、第4回アジアパラ競技大会では、大会史上初となる金メダルの獲得や2024年パリオリンピック・パラリンピックへの出場権を獲得した競技もあるなど、日本代表選手団は素晴らしい活躍を見せてくれました。また、アジア各国のアスリートやスポーツに関わる様々な関係者等が一堂に会して交流を深め、スポーツを通じた国際親善の場としての同大会の意義をあらためて感じたところです。

2026年に愛知県・名古屋市で開催される第20回アジア競技大会、第5回アジアパラ競技大会（愛知・名古屋大会）は、32年ぶりの自国開催となります。同大会は、オリンピック・パラリンピックに次ぐ大規模な国際総合競技大会として、国民の皆様にとってトップアスリートが躍動する姿を直接感じていただく絶好の機会となります。とりわけアジアパラ競技大会の開催は、パラスポーツを通じた共生社会の実現等に貢献するものでもあります。

このような愛知・名古屋大会の重要性に鑑み、日本オリンピック委員会及び日本パラスポーツ協会では、愛知・名古屋大会をロサンゼルスオリンピック・パラリンピック大会に向けた重要なマイルストーンと位置付け、多数のメダル獲得が期待できる強力な日本代表選手団を編成し、各中央競技団体とともに総力を挙げて選手強化を行うなど必要な取組みを進めてまいります。

つきましては、スポーツ界が一丸となり、愛知・名古屋大会の成功に向けて力を結集する観点から、特に下記の事項を中心に、スポーツ円卓会議メンバーの特段のご理解とご協力、ご支援をお願い申し上げます。

記

1. 愛知・名古屋大会を、ロサンゼルスオリンピック・パラリンピック大会に向けた国際競技力向上における最重要マイルストーンの一つとして位置付け、日本代表アスリートの活躍を実現する観点で実施される計画的な強化を促進、支援すること
2. 愛知・名古屋大会で実施される非オリンピック競技種目に関しては、愛知・名古屋大会に向けた特例的な措置として、スポーツ医・科学サポート等を JOC・JSC による共同プロジェクトとして実施すること
3. 地方公共団体との連携の下に、例えば、JPC で IPC 公認教材「I' mPOSSIBLE」日本版を活用したパラリンピックムーブメント教育活動を行っているように共生社会実現に向けたプロジェクトを JOC・JPSA・JSC が夫々及び連携して実施するなど、愛知・名古屋大会を、スポーツの力による社会変容の好機とするべく、スポーツ界としても連携協力を強めること
4. ドーピング防止やスポーツ・インテグリティの確保を含め、アスリートの力を発揮できる大会運営を実現する観点から、スポーツ振興くじによる助成などの支援を充実すること

令和5年11月2日

公益財団法人日本オリンピック委員会

会 長 山 下 泰 裕

公益財団法人日本パラスポーツ協会

会 長 森 和 之